

2017年2月28日

経済レポート

2017年1月の鉱工業生産指数の結果

～前月比 - 0.8%と6か月ぶりに低下したが、基調としては持ち直している～

調査部 主任研究員 中田一良

1月の鉱工業生産指数の結果

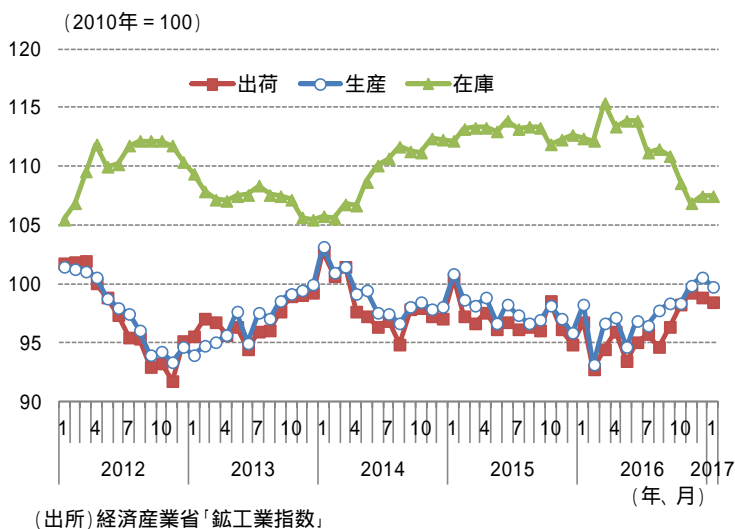
1月の鉱工業生産指数は、前月比 - 0.8%と6か月ぶりに低下したが、基調としては持ち直している(図表1)。出荷指数は前月比 - 0.4%と低下が続き、在庫指数は前月比横ばいだった。在庫指数は前年比 - 4.3%と低下が続いているものの、低下幅は縮小しており、低下に歯止めがかかってきた可能性がある。

1月の生産指数の動向を業種別にみると、電子部品・デバイス工業はスマートフォン向けの部品を中心に前月比 + 5.7%と4か月連続で上昇した一方、輸送機械工業、化学工業(除く医薬品)、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業をはじめ15業種中12業種では低下した(図表2)。特に、輸送機械工業は、普通乗用車、自動車用エンジンなどを中心に前月比 - 4.7%と低下し、全体を押し下げた。

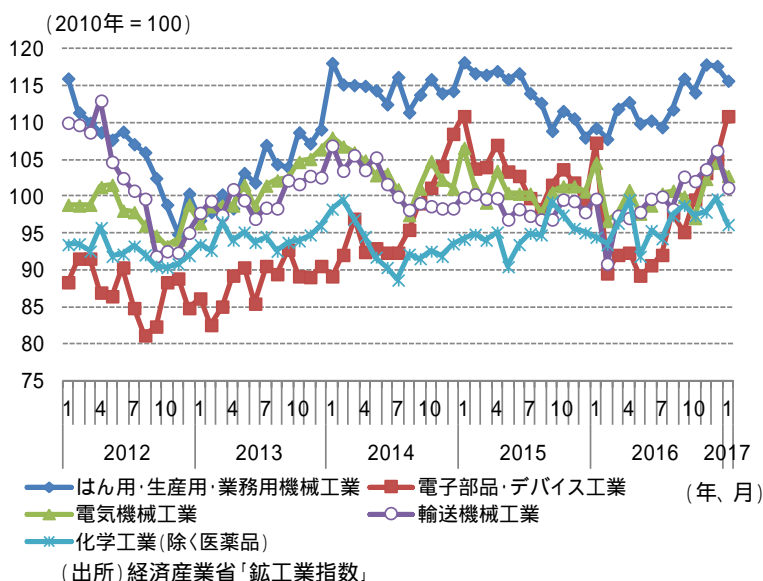
財別では、耐久消費財は普通乗用車が落ち込んだことなどから前月比 - 3.9%と大きく低下したほか、資本財(除く輸送機械)、非耐久消費財、生産財、建設財も低下した。

1月の出荷指数の動向を財別にみると、全体の約半分を占める生産財、耐久消費財、建設財、非耐久消費財が低下する中、資本財(除く輸送機械)は、半導体製造装置を中心に前月比 + 0.7%と上昇した。

図表1 生産・出荷・在庫の推移



図表2 業種別の生産動向



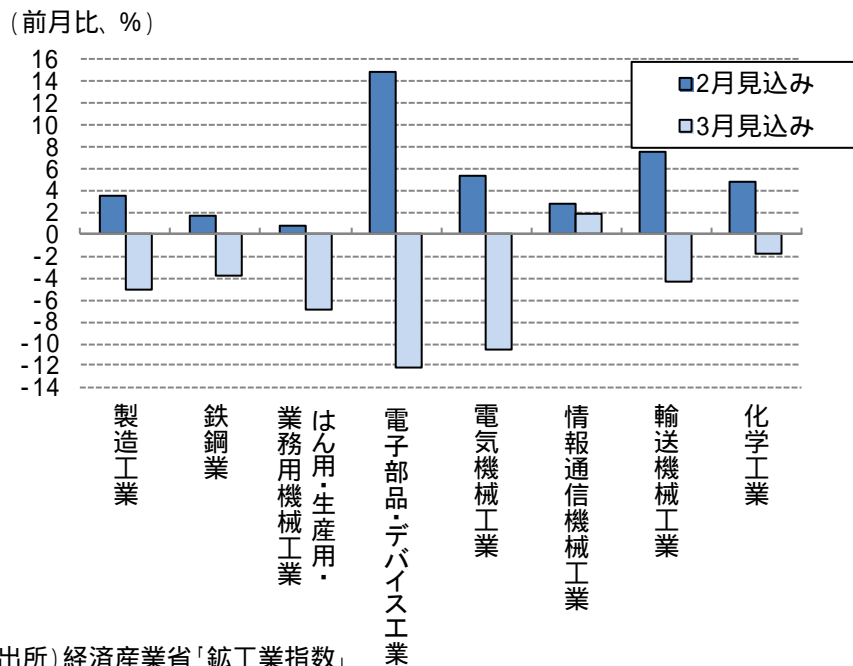
今後の見通し～製造工業生産予測調査の結果

2月の製造工業生産予測調査によると、製造工業生産予測指数は、2月は前月比+3.5%と上昇した後、3月は同-5.0%と低下する見込みとなっている(図表3)。

業種別にみると、2月はいずれの業種も上昇する一方、3月は情報通信機械工業以外の業種では低下する見込みとなっている。中でも、電子部品・デバイス工業は、2月に前月比+14.9%と大幅に上昇した後、3月は同-12.1%と大きく低下する見込みであり、月々の変動が大きい。中国の春節の影響により2月の生産水準が押し上げられている可能性がある。

電気機械工業、情報通信機械工業などの実績は予測を下回る傾向がみられることから、2月の製造工業全体の生産指数は、予測調査の結果を下回るものの、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、化学工業を中心に上昇が見込めるだろう。

図表3 製造工業生産予測調査による見込み(主な業種)



ご利用に際して

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。